

2022年6月4日配布

第305回山口西田読書会（2022年5月28日開催分）の Protokol

大藤 渉

1. テキスト：「場所」「三」の第4段落 249頁2行目から同段落 249頁14行目まで
2. キーワードないしキーセンテンスと考察ないし問い

「真の無の立場の極限」(249,14)

西田は、「一般概念が対象化せられ得る限り知識の範囲に属する」(249,9) という。これは「判断の意識」(249,10) の範囲である。判断が限定作用を失う転回点となるのは、「矛盾の意識」(249,10) であり、之を越えると「意志の世界」(249,10) に入り、「意志の意識」(249,10) の範囲となる。だが、西田はここに留まらず、真の無の場所の窮極に於て意志をも超え、「純粹状態の直観」(249,12) に到るという。意志の矛盾の超越を経て、「真の無の立場の極限」(249,14) に達するという。

西田は、より深いところに向かってるように思える。それでは、その反対の方向に進む道はあるのだろうか。